



Bauhaus Project



Architecture
Presentasion

architect
Hirohumi Mihara

FANFARE
@Fukuoka



建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



R+house



BAUHAUS.
The house satisfies the functions,
and it's strong and are cheap and there should be it beautifully.



Architect Point

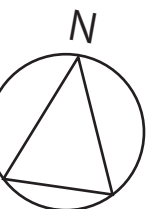
北側（実家の窓）に建物が被らないように。という要望と、当初は南側からの出入しか考慮していなかった施主様に西側からの出入も建築家が提案し、駐車配置も計画。車の出入りを考えると南側は高低差があるため、こちら側（西側）からの出入りに重きをおいた、そうすると必然的にカタチが決まってきたが、車の妨げにならないよう隅を落とした。彫刻で削ぎ落したようなデザインとなり「彫刻のような家」と名付けられた。

車の出入り

-Request-

子どもの為の記念樹など、思い出があるので敷地内の樹木を可能な限り残したい。（実家のお母様からの要望）すべての樹木を残し、さらに室内に入る光をコントロールする役割と、観賞用としての配置を意識した建物形状。

車の出入り

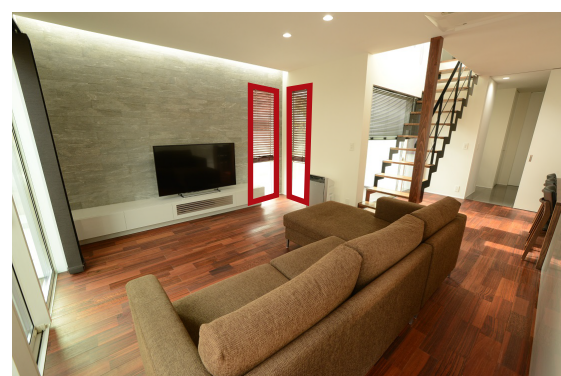


-Request-

友達をたくさん招待しても圧迫感の無い間取りで、南側に開放感ができるようにしたい。

LDK 南側に大きな窓を設置。ウッドデッキと繋がりができ、空間が広がることで、さらに開放感を演出。大人数が集まるときは、窓を開けてウッドデッキをLDKの一部として使えるようにLDKとウッドデッキはフラットに繋げている。

西側は外部からの視認性が高い為、閉じたかったが窓が無いと圧迫感がでるため、コーナー窓を設置。そうすることで外からは見えにくい室内からは外に視線が広がり圧迫感を解消し、広がりを感じられる。



-Request-

ゴミのストックを外にするので、そこまで出る動線を楽にしたい。リビングの窓を勝手口としても使えるように掃き出し窓とした。ブロック塀で囲まれているので外からも死角になる位置。家事動線で楽々ゴミストックできる。

-Request-

中庭が欲しい。

中庭（パティオ）で樹木を鑑賞できるようにしている。

目の前に階段を設置したことにより、階段の上り下りの際も樹木を異なる視点から楽しみ、夜はライトアップして、昼とは違った雰囲気を楽しむ。

こどもの遊び場になったり、お酒を愉しむスペースになったり多種多様な使い方ができる。また、樹木が室内への目隠しの役割も兼ねている為、カーテンを開けっ放しにしても外部の視線が気にならない。



-Request-

キッチンに立っている間も家族の様子が見えるように。リビングの中心にキッチン配置。ダイニングからの配膳もスムーズで、テレビも見れる位置なので調理中でも家族と一緒に時間を楽しむことができる。また、アイランド型なのでリビングのどちらからでもキッチンに行けて、回遊性のある動線となり広がりも感じられる。行き止まりが無いので複数でキッチンを使用してもスムーズに動いてストレスが無い。

-Request-

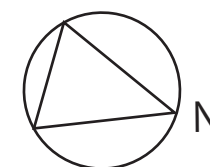
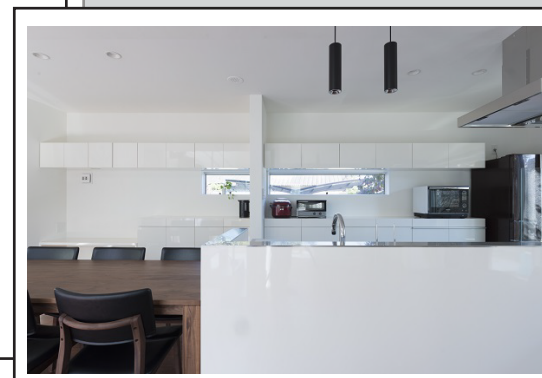
やんちゃ盛りの息子がふたり。汚れて帰ってくることも多いので、帰宅してすぐに洗面に行くようにしてほしい。玄関から真っすぐ、洗面に直行できるような導線に。

また、洗面を独立させることにより、誰かが脱衣・バスルームを使っているときに洗面を使いづらいということがないので水回りが混み合う時間でもスムーズに使うことができる。

Architect Point

玄関から入って来客動線と家族動線、ふたつの動線を確保。

シューズクローゼットは靴の他にも、コートや子供用の外用荷物、ゴルフバック等も収納可能。玄関側とホール側に引戸がついているので、閉めれば生活感を隠し、いつでもスッキリとした玄関を維持でき、急な来客時も生活感をださずに対応できる。



Architect Point

フリースペースは階段の吹抜けと、外に向かって視線が抜けることで開放感を演出。広くすることは簡単だが、予算に限りがあるので、限られた空間を最大限に活かし広く見せる設計。

また、室内干しをするスペースとしても活用できる。

**Architect Point**

寝室は、各個室から離し静かで落ち着ける空間とした。実家からの視線が被らないように高めの位置に横長の窓を設置。光と風は取り入れるが室内は見えないような設計。

—Request—

子どもは3人予定しているが、性別が分からないので子ども部屋は変更がきくようにしてほしい。

当時、ご夫婦には息子さんがふたり。

まだ幼稚園生なので個室の必要性は低いと判断。将来的に個室が必要となれば仕切りや壁を造り最大3部屋に変更可能。

また、トレーニングルームの壁を抜くことも可能な構造としているので個室を、より広く使うこともできる。

可変性を考慮した設計でないと、壁を付け足す・抜く等の変更ができない場合がある。今とは異なる将来のライフスタイルを考慮することで生涯、無駄の無い空間設計となる。

**—Request—**

ご主人がトレーニングが趣味。マシンを置くスペースが欲しい。

スペースが広く取れなかったため、階段と向い合せにすることで開放感を意識。

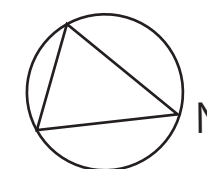
階段→フリースペース→個室というように、個室までの動線にゆとりをもたせて、個室は常に開いた状態で使用することで開放感をだしている。

Architect Point

バルコニーは囲うようなカタチにしている室内の一部のようなイメージとしている。

外から干してある洗濯物が丸見えになることがなく、プライバシー性も優れている。

また、バルコニーを利用し、ご両親とも会話ができる位置にしている。



Architect Point

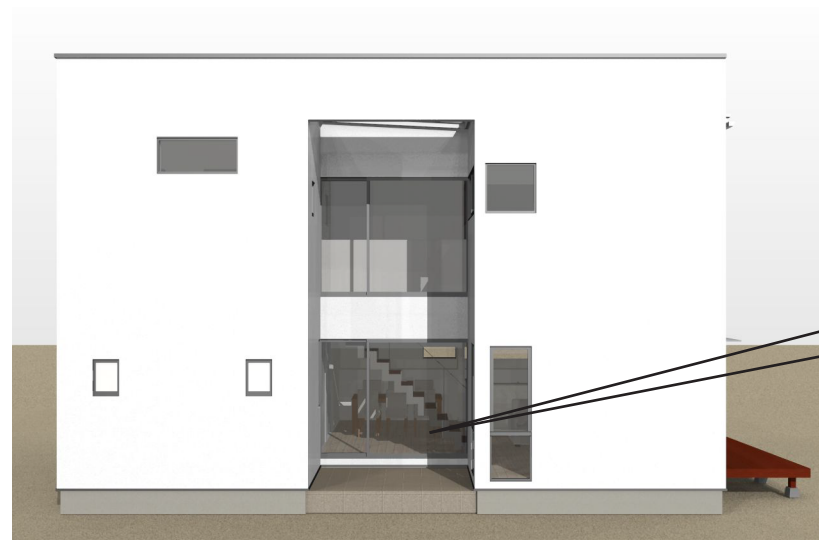
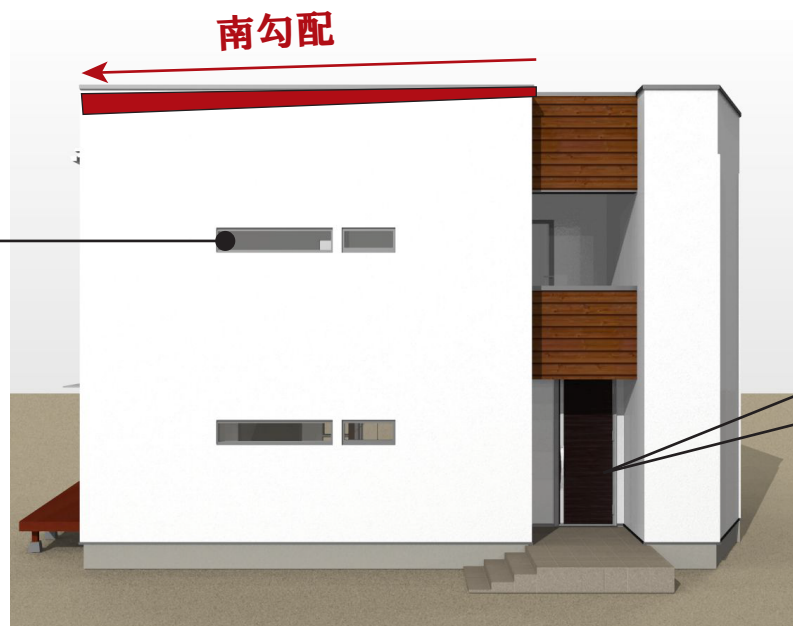
東側は実家のご両親と来客の従来も多く、視線も気になるのでプライバシー性を考慮して閉じた設計としている。

玄関ドアも閉じたイメージに合わせクールなものをセレクト。

東側の窓計画は視線は遮りつつ光は取り入れられるよう横長の窓を設置。外からは高めの位置なので、室内からは外の様子が伺えるが外からは室内が見えないようになっている。

Architect Point

太陽光が見えると外観の美しさが損なわれるため、東側と西側にパラペットを設けて家の正面から太陽光が見えないようにした。

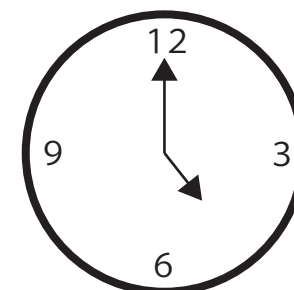
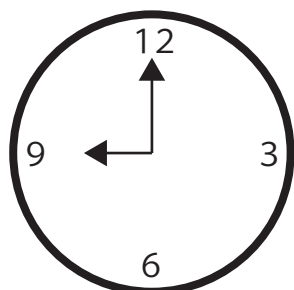


パッシブ設計

夏は陽射しを避け、風を取り込み涼しく。冬は、北風を避け部屋の奥まで陽射しを取り入れ暖かく。

極力、特別な機械装置（エアコンや床暖房等）を使わず自然の熱や空気の流れをコントロールし、快適な室内環境をつくりだす手法。

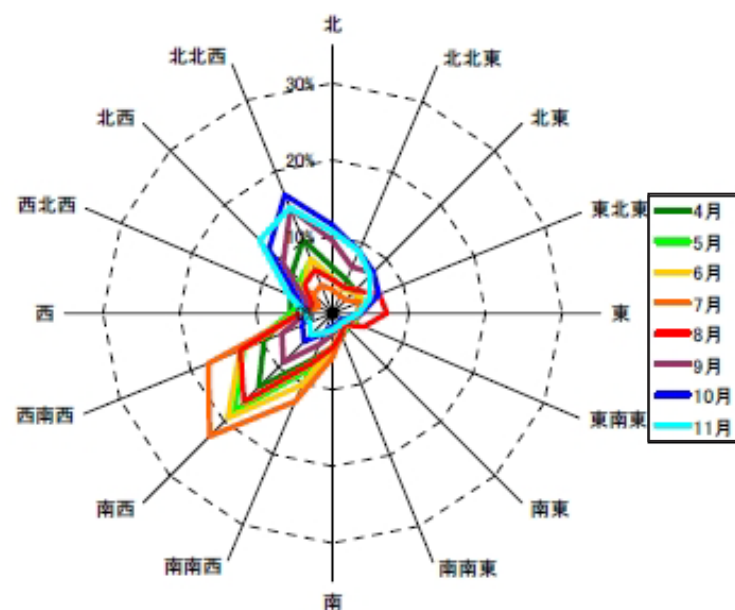
結果、**エネルギーコストの小さい家づくり**となる。



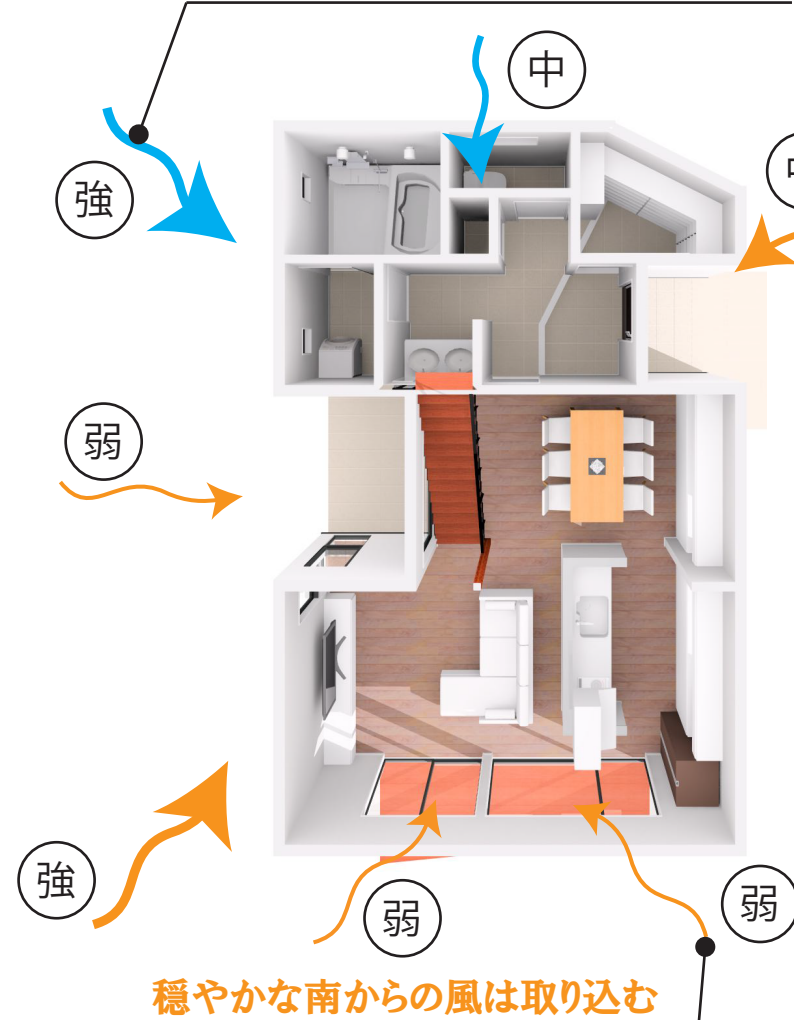
中心となるLDKに午前中は心地よい朝日を取り入れ、夕方の厳しい西日は遮っている。

夏の風
冬の風

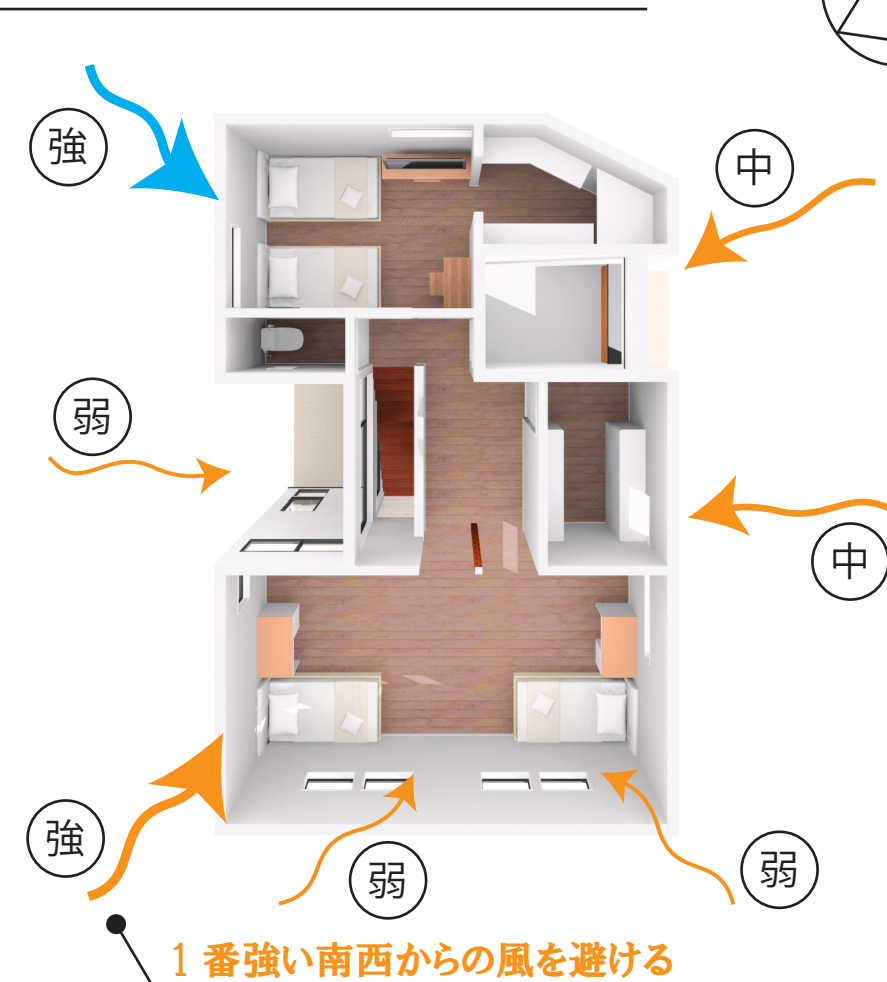
【起床時】 月別風配図



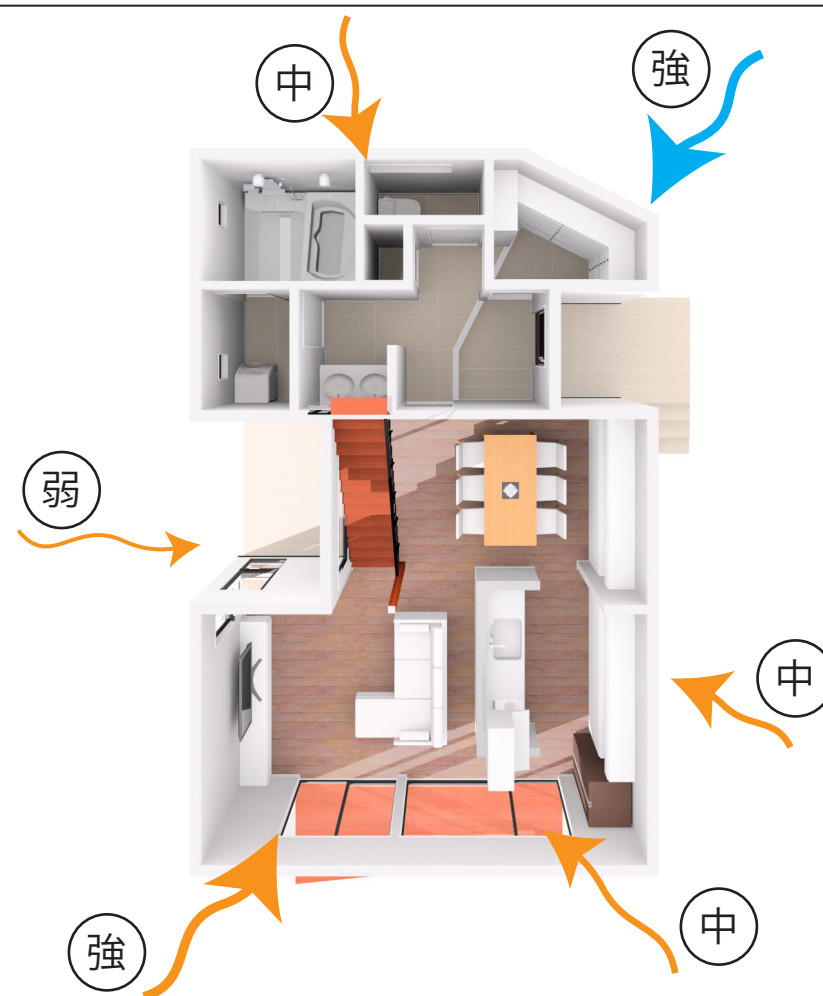
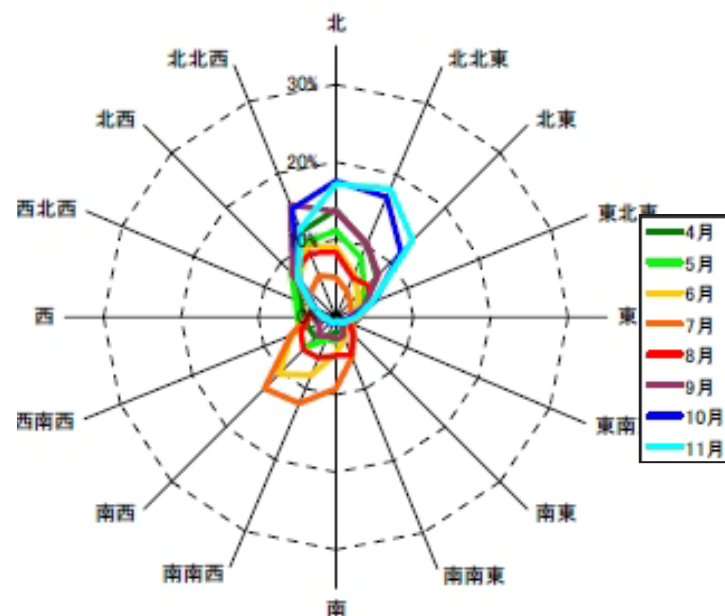
1 番強い北北西からの風から守る



強すぎず弱すぎない東からの風が入る



【就寝時】 月別風配図



強い北北東の風から守る

